

# 第1回新処理施設整備検討委員会

日時：平成28年6月10日（金）14時～16時10分

場所：石岡市役所 本館1F 大会議室

## 1. 開 会

## 2. 管理者挨拶

## 3. 委嘱状交付

## 4. 自己紹介

## 5. 委員長及び副委員長の互選

## 6. 委員会諮問について

## 7. 議 事

### 1) 経緯報告、事業概要

事務局：事業2及び3の説明。

会議の公開に関しては、メーカー等のノウハウ、入札情報等もあるため、会議は非公開とし、議事録は委員名を伏せて事後公開とすることによろしいか。

全委員：一同了承。

事務局：資料3の説明。

委 員：交付金はなぜ3分の1なのか、2分の1ではないか。

事務局：制度は1/3と1/2があり、災害に対する計画性に違いがある。1/2の要件を満たす場合、市町村で災害廃棄物処理計画が必要となる。議論を重ねた結果、災害ごみの受け入れまたは設備上の対策は求めるものの、交付金制度として交付率は1/3を想定することとする。

委 員：災害廃棄物の受け入れと災害廃棄物処理計画が必要であり、各市町の足並みをそろえることが必要なため、安全をみて1/3としたと理解してよいか。

事務局：良い。

### 2) 今後の委員会予定

事務局：資料4の説明。

委 員：平成32年度の竣工をさかのぼった場合に、本契約、入札公告、それまでの条件設定が必要となる。復興特別交付税を受けるために平成32年度中の竣工が必達である。という趣旨である。このスケジュールで進めることでよいか。

全委員：異議なし。

### 3) 公害防止基準、処理方式、事業方式

#### (1. 公害防止基準の検討)

事務局：資料5の説明。

委員：法規制に上乘せした自主基準を定めることが一般的である。現有施設、県内他事例を踏まえ、設定したとのことである。水戸市と同等レベルである。

委員：数値的には安全であると考え。建設コストが高くなることはないか。

事務局：特別な追加投資が必要なくできるレベルと考えている。

委員：都市部ではもっと低い濃度を設定していることもあるが、経済面や最大着地濃度を考慮した場合、ほとんど違いもないため、経済性からみても妥当だと考える。

委員：建設予定地の周辺には、同様の規制が掛かるものはあるのか。

事務局：ないかと思われる。工場等もあるため、自主的に規制等をしている場合もあるかもしれない。

委員：小美玉市は、その他地域のK値17.5でよいか。

委員：K値から算出したものでよいか。

事務局：K値17.5から算出したものである。

委員：ダイオキシンも4t/h以上の場合0.1の基準であり、騒音、振動は法規制値、排水は系外には放流しない。

委員：排水する場合は、日量何tぐらいか。

委員：近年は少なくなっており、洗車排水やプラットホーム排水程度である。膜ろ過まで使用すれば、すべて再利用も可能である。

委員：基本は放出しないと考えてよいか。

委員：雨水は含まれるのか。

事務局：雨水は工場排水に含まれない。公共用水域に放流する。

全委員：提案数値で了承する。

#### (2. 処理方式について)

事務局：資料6の説明。

委員：ストーカが多い理由は？使い勝手によって選ばれている等はどうか。

事務局：ストーカの採用数が多い、実績が多いこと、処理安定性に優れている点等があげられる。

委員：方式によって、t単価等は違うのか。ストーカと比較して。

事務局：ストーカ単独と溶融を単純には比較できない。溶融システムが付かない方式は安い。

委員：ストーカで何十年も運営を行っている。同じ建物中にどの方式も全部入るのか。機械の大きさに。

事務局：流動床式とストーカ式では流動床式の方が縦に（上に）長い特徴がある。ストーカ式の方が横幅が必要になる。

委員：焼却炉と溶融炉の部分が異なる。それ以外は同じである。この部分が大きさに影

響する。排ガス系統等は変わらないため、全体としては大きく変わらない。

委員：メンテナンススペースがキッチンと取れるほうが良いと思う。10年後のメンテ等を考慮して。

事務局：処理方式については、安定的な処理とコスト縮減が最も大きい。絞ったために競争性が働かない、また、絞らずに安定性が損なわれることを避けたい。

委員：コストは事業方式にも関連する。

委員：処理方式を決める段階で収集形態によって、変わるのではないか。プラや生ごみなど。そのあたりを含めて考えないといけないのではないか。

事務局：次のターニングポイントとして見積依頼がある。質問の条件は決めて依頼する予定である。次回委員会までに市町内部で同時並行して、検討し、報告する。

委員：アウトプットのほうで、焼却灰、スラグ等を資源化する、最終処分する等によってもわかれると思う。霞台では資源化しているが、2組合では処分している。組合の意向としてどのように考えているのか。

事務局：資源化は行いたい、コストを度外視して、すべて資源化するという意向もない。現状は、リスクと費用を考慮しつつ、資源化と処分を行っている。将来は今後方向性を決める。

委員：次回、灰の現状と将来の方向性を提示してほしい。全国的には最終処分場の保有状況等によって、決めている場合もある。

### （3. 事業方式の検討）

事務局：資料7の説明。

委員：DBOが望ましいということか。事例を見てもDBOが良いと思う。

委員：公設公営に人件費削減が運営形態によるとなっているが、なぜか。

事務局：運営形態によっては、プロパー職員も事務が残ることが考えられ、経費に関係する。

委員：再度、第2回でも議論する。

## 4) その他

事務局：次回は8月10日。現地視察は次回とする。

## 8. 閉会